

中一国語

行書 第一回

点画の連続と変化1・2

「大木」「栄光」

講師・・羽場雅希

◆今日の授業で学ぶこと

- ・行書で書いてみよう（大木・栄光）
- ・まとめ書きと応用

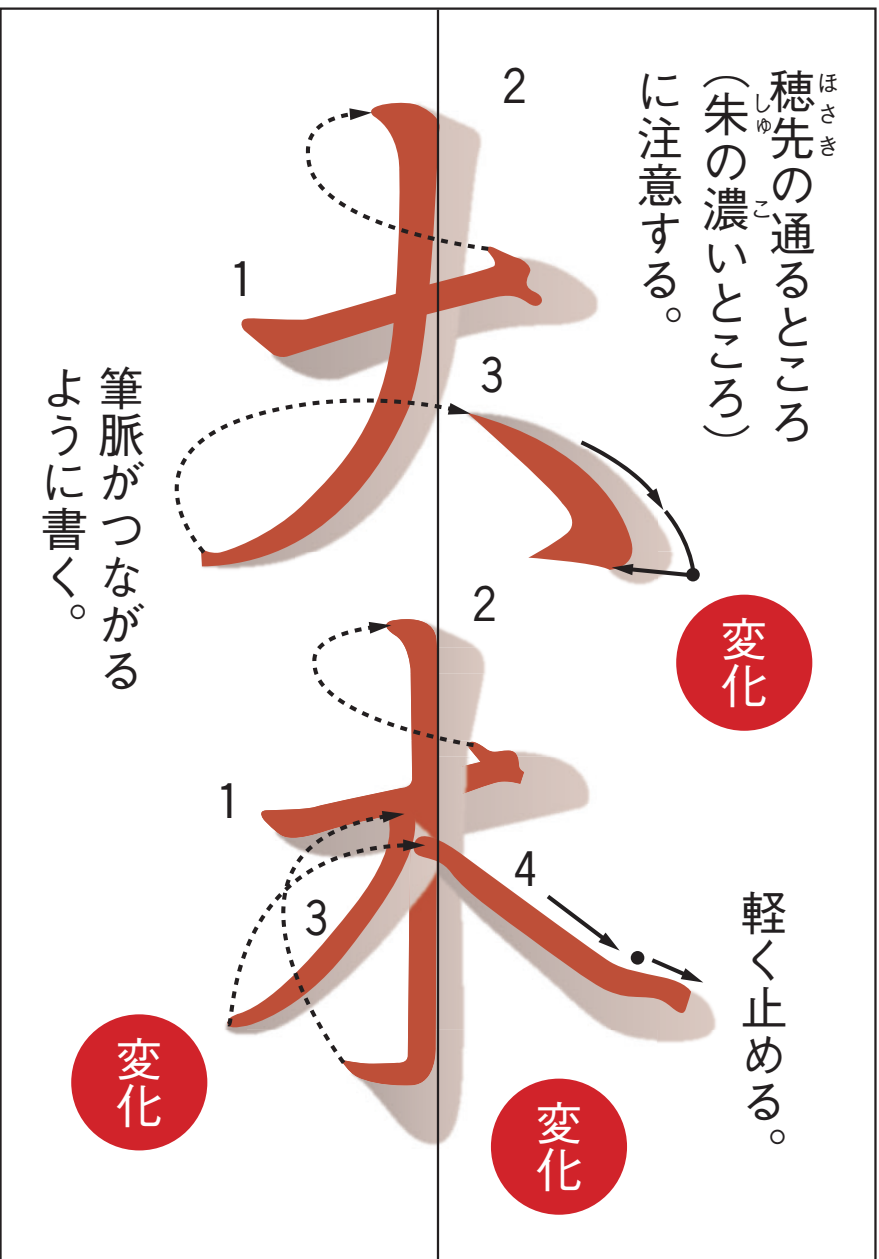
◆ 行書で書いてみよう①

- ・点画の連続と変化 1 「大木」

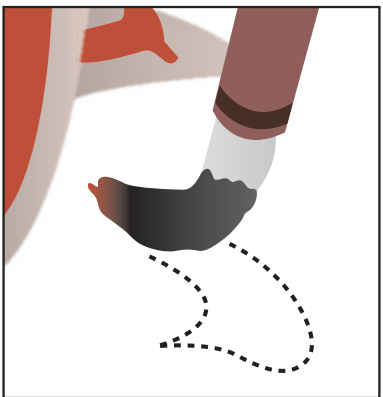
点画の連続と省略を理解して書こう。



- 点画が連続し、筆脈が表れているのは、どの部分だろうか。
- 楷書に比べて、点画の形は、どう変化しているだろうか。



◆「大」の変化



だんだんと筆圧を加え、止める。

◆「木」の変化



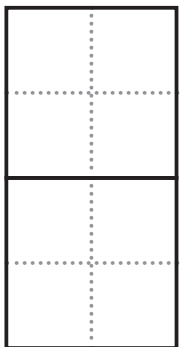
軽く止め、次の画へ。

「大」の三画めを（変化）させた結果、速く書くことができた。

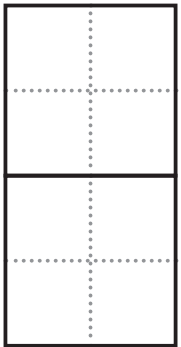
◆ まとめ書きと応用

まとめで「大木」を行書で書いて確認しよう。

大 木



「大」のつく二字熟語を行書で書いてみよう。



◆ 行書で書いてみよう②

- ・点画の連続と変化 2 「栄光」

点画の連続と省略を理解して書こう。



・楷書に比べて、点画が連続したり、形が変化しているのは、どの部分だろうか。

丸み
変化
筆脈ひつみやくに
気をつける。

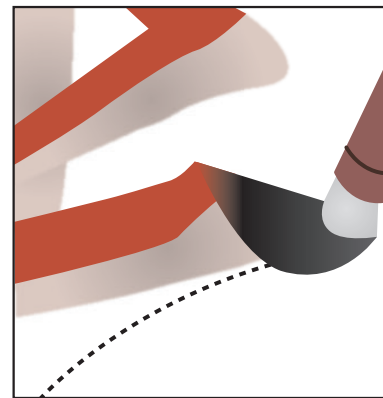
連続

連続
四、五画めを
続ける

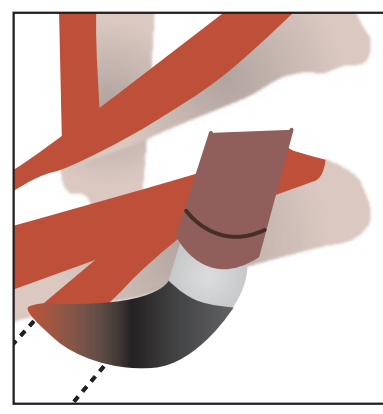
連続

終筆は、軽く止め
次の画へ移る。

◆「光」の連続



一度止め、方向を変える。



横画を少し折り返し、左下へはら払う

「栄」の四、五画めを（連続）させ、

八、九画めの払いを（変化）させた結果、

速く書くことができた。

〈連続〉 点からの連続

点画と点画との間に、筆脈の線がでたり、直接連続することが多い。



並んだ三つの点画では、一、二、三画めを連続させて書くと、整えて書ける。



〈連続〉 横画から左払いはらへの連続

点画と点画とが、直接つながることがある



〈変化〉 右払い・左払い

点画の長さ、方向などが変わることが多い。

木 ホ↓木	条	集
----------	---	---

「木」の形は「木」や「ホ」に変化する。

栄・栄 楽・楽

◆ まとめ書きと応用

まとめで「栄光」を行書で書いて確認しよう。

栄	光
---	---

「栄」のつく二字熟語を行書で書いてみよう。
